

令和 5 年 5 月 17 日現在

機関番号：32689

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06344

研究課題名（和文）顔と身体表現における顕在的・潜在的過程

研究課題名（英文）Explicit and implicit processes of face-body

研究代表者

渡邊 克巳（Watanabe, Katsumi）

早稲田大学・理工学術院・教授

研究者番号：20373409

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 79,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、顔と身体表現の文化差と個人差に注目して、顔認知の予測・記憶・選好に関する認知ストラテジーとダイナミクスを顕在過程・潜在過程の観点から多様な実証的手法を用いてそのメカニズムを調べた。その結果、顔表情の動的データベース、顔印象の脳内テンプレート、無意識的に身体に現れる「他者」の影響、社会適応に関わる顔身体認知の基礎研究、顔身体過程の整理的・神経的メカニズムなど多彩な成果を得た。トランスカルチャー状況における顔身体の実証的研究基盤を明らかにし、新たな学術領域の構築を達成したと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多様な人々が集い、異なる文化が交錯するトランスカルチャー状況において、顔と身体表現の差異と普遍性を明らかにすることは、異文化理解とコミュニケーションの観点から特に重要である。本研究は、このような状況で顔認知の予測・記憶・選好に関する認知ストラテジーとダイナミクスを顕在過程・潜在過程の観点から実証的に解明したことが、学術的意義として挙げられる。また、研究の内容は「身体認知・表現の自由さ不自由さ」や「実践を通じた身体過程の重要性」などの新しい研究軸の発見となり、本研究終了後も、社会の中でオープンな議論につながっている。

研究成果の概要（英文）：Focusing on cultural and individual differences in face and body expression, we investigated the mechanisms of cognitive strategies and dynamics related to prediction, memory, and preference of face-body cognition using a variety of empirical methods in terms of explicit and implicit processes. We obtained diverse results: A database of dynamic facial expressions, perceptual templates of facial impressions, the implicit influence of others on body movement, empirical research data on face-body cognition related to social adaptation, and the physiological and neural mechanisms of face-body processes. These results have contributed to the new research foundation of the face-body processes in "transcultural" situations.

研究分野：実験心理学・認知科学

キーワード：顔 身体 文化

1. 研究開始当初の背景

多様な人々が集い、異なる文化が交錯するトランスカルチャー状況にある現代社会において、顔と身体表現の差異と普遍性とを明らかにすることは、異文化理解とコミュニケーションの観点から特に重要である。これまで、人間は明示的には気付いていなくとも、微細な差を無意識に検出して行動を変容させることが、単純な画像刺激や意思決定を対象として示されてきたが、顔と身体表現という人間にとって真に重要な情報について、どのように無意識的な潜在処理がなされるかは明らかになってはいなかった。

2. 研究の目的

本研究では、顔と身体表現の文化差と個人差に注目して、顔認知の予測・記憶・選好に関する認知ストラテジーとダイナミクスを顕在過程・潜在過程の観点から実証的に解明する。この2つの過程は、顔認知の障害においては、顕在過程に問題があるため人物同定できない相貌失認と、潜在過程に問題があり親しい人物が偽物に感じられるカプグラ症候群という特異的な症状で現れるが、これらを特に図1に記されているような観点や方法論を活用することで明らかにしていくことを目的とした。

顔と身体表現の認知ストラテジーとダイナミクスの異文化研究
→顔と身体表現の文化差・個人差が生じるメカニズムの解明

トランスカルチャー状況における 顔身体の研究基盤の構築

- ①国際顔・表情データベース
- ②印象を操作できる顔構造統計モデル
- ③顔認知能力の個人差の推定法
- ④社会適応に関わる顔身体認知
- ⑤1秒以内で行われる顔身体過程のダイナミクス

図1

3. 研究の方法

顔と身体表現の文化差と個人差に注目して、顔認知の予測・記憶・選好に関する認知ストラテジーとダイナミクスを顕在過程・潜在過程の観点から、認知様式の連続性(スペクトラム)と普遍性・多様性・ダイナミクスをあぶり出し、行動実験、眼球運動、皮膚電位(SCR)、機能的脳イメージングなど多様な実証的手法を用いてそのメカニズムを調べた。

4. 研究成果

2017年度：特に主観印象を操作できる顔構造統計モデルの構築と社会適応に関わる顔身体認知の社会・文化による影響などについて着実に研究を進めるとともに、海外の共同研究者との研究体制構築を進めた。

2018年度：今後の研究の基礎となる1) 国際共同顔・表情データベースの構築、2) 主観印象を操作できる顔構造統計モデルの構築、3) 顔認知能力の個人差の推定法、4) 社会適応に関わる顔身体認知の社会・文化による影響などについて着実に研究を進めてきた。また、海外の共同研究者との研究体制構築も順調に進み。これまでの研究の中でも、視線の予期に関する研究などの成果を、複数の査読付き国際雑誌に論文として刊行した。

2019年度：構築された国際共同顔・表情データベースを活用した研究の展開、データ駆動による顔構造統計モデルによって作成された顔刺激を使った実験群の実施、顔と個人を結びつける時に用いられる人格認知の発達研究などの研究を進めた。オンラインでの実験環境の構築も速やかに行うことで、データの蓄積も比較的スムーズに行われ、複数の研究の外部発表も行うことができた。また、海外の共同研究者との研究もオンラインでのミーティングによって進めている。加えて、中間評価に向けた研究の取りまとめと、今後の展開に向けた研究体制の再構築にも力を入れた。

2020年度：中間評価のコメントを取り入れ、さらなる展開に向けた研究につながるように実施した。コロナの影響もいまだのこるなかで、前年度に引き続き、オンラインでの実験環境の構

築も速やかに行うことで、データの蓄積も比較的スムーズに行われ、複数の研究の外部発表も行うことができた。また、海外の共同研究者との研究もオンラインでのミーティングによって進めた。視線の知覚に関する研究、顔魅力に関する総合的な研究などの成果を、査読付き論文、国際学会などに発表することができた。また、『顔身体ハンドブック』の刊行も大きな成果として挙げられる。

2021年度及び2022年度（延長）：2021年度は、新学術領域としては最終年度であったが、研究の継続的な実施が必要であったため、一年の延長を含めた形での研究を実施した。前年度に引き続き、オンラインでの実験環境の構築も速やかに行うことで、データの蓄積も比較的スムーズに行われ、複数の研究の外部発表も行うことができた。また、海外の共同研究者との研究もオンラインでのミーティングによって進めている。一年延長によって、空間的な位置と顔の文化差の関係の研究、Other-race effect に対しての眼球運動による計測、行動に伴う知覚の変化などの成果につながり、今後の新しい領域の展開の元となる成果を蓄積できた。

このように、本研究の研究成果は多岐にわたるが、整理すると図2のような成果につながり、トランスカルチャー状況における顔身体の実証的研究基盤を明らかにし、新たな学術領域の構築を達成したと考えている。これらは、「身体認知・表現の自由さ不自由さ」や「実践を通じた身体過程の重要性」などの新しい研究軸の発見につながり、本研究終了後も、シンポジウム（国内・国際）などにおいて活発な議論が行われている。

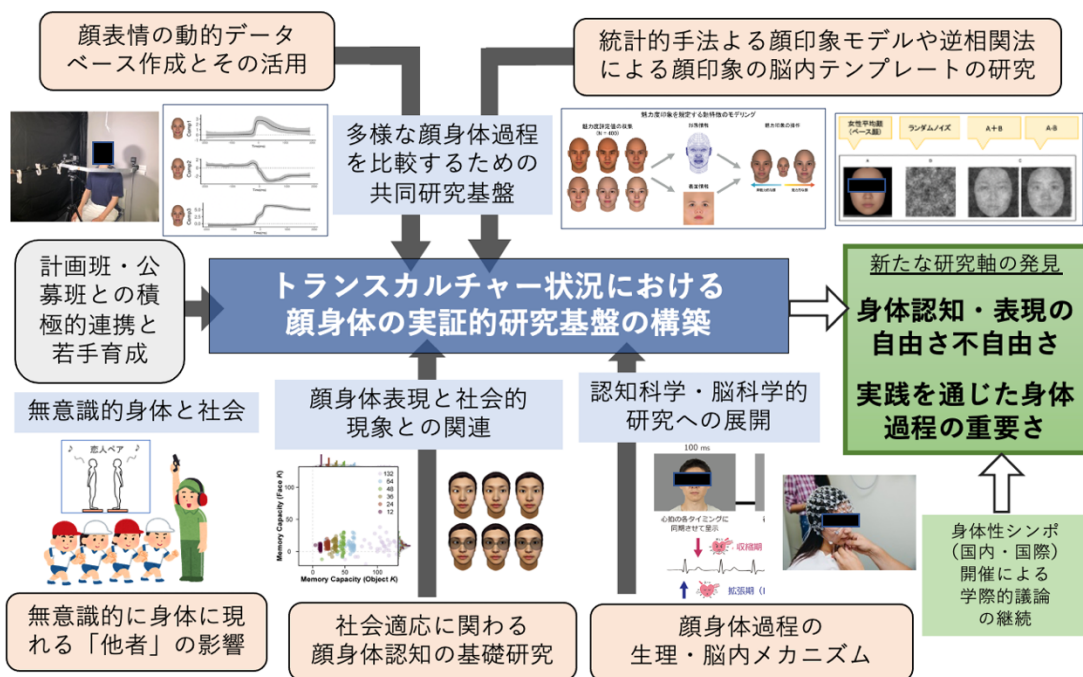


図2

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Meng Xianwei, Ishii Tatsunori, Sugimoto Kairi, Song Ruiting, Moriguchi Yusuke, Watanabe Katsumi	4. 巻 188
2. 論文標題 Smiling enemies: Young children better recall mean individuals who smile	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Child Psychology	6. 最初と最後の頁 104672 ~ 104672
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jecp.2019.104672	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakamura Koyo, Watanabe Katsumi	4. 巻 6
2. 論文標題 Data-driven mathematical model of East-Asian facial attractiveness: the relative contributions of shape and reflectance to attractiveness judgements	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 182189 ~ 182189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.182189	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 佐々木 恭志郎、米満 文哉、山田 祐樹	4. 巻 62
2. 論文標題 利き手側の良さ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 262 ~ 271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.62.3_262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Zhu Siqi, Sasaki Kyoshiro, Jiang Yue, Qian Kun, Yamada Yuki	4. 巻 8
2. 論文標題 Trypophobia as an urbanized emotion: comparative research in ethnic minority regions of China	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 e8837 ~ e8837
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7717/peerj.8837	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Isomura Tomoko, Watanabe Katsumi	4. 巻 195
2. 論文標題 Direct gaze enhances interoceptive accuracy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 104113 ~ 104113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cognition.2019.104113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawaguchi Yuri, Nakamura Koyo, Tomonaga Masaki	4. 巻 10
2. 論文標題 Colour matters more than shape for chimpanzees' recognition of developmental face changes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 18201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-75284-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤有瑛・小林麻衣子・中村航洋・渡邊克巳	4. 巻 119
2. 論文標題 TPOに合わせたメイクとその対人印象の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告書	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森岡祐士・中村航洋・小林麻衣子・渡邊克巳	4. 巻 119
2. 論文標題 日本人顔モデルを用いたReverse caricature effectの持続性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告書	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murata Aiko, Nishida Hiroshi, Watanabe Katsumi, Kameda Tatsuya	4. 巻 10
2. 論文標題 Convergence of physiological responses to pain during face-to-face interaction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-57375-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Marmolejo-Ramos Fernando, Murata Aiko, Sasaki Kyoshiro, Yamada Yuki, Ikeda Ayumi, Hinojosa Jos? A., Watanabe Katsumi, Parzuchowski Michal, Tirado Carlos, Ospina Raydonal	4. 巻 67
2. 論文標題 Your Face and Moves Seem Happier When I Smile	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Experimental Psychology	6. 最初と最後の頁 14 ~ 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1027/1618-3169/a000470	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsuyoshi Daisuke, Watanabe Katsumi	4. 巻 84
2. 論文標題 People have modest, not good, insight into their face recognition ability: a comparison between self-report questionnaires	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychological Research	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00426-020-01355-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島璃子・磯村朋子・石井辰典・渡邊克巳	4. 巻 120
2. 論文標題 目の表情変化の検出が笑顔の真偽判断に及ぼす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告書	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Palmer Colin J., Otsuka Yumiko, Clifford Colin W.G.	4. 巻 205
2. 論文標題 A sparkle in the eye: Illumination cues and lightness constancy in the perception of eye contact	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 104419 ~ 104419
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cognition.2020.104419	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nguyen Alysha T. T., Palmer Colin J., Otsuka Yumiko, Clifford Colin W. G.	4. 巻 147
2. 論文標題 Biases in perceiving gaze vergence.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Psychology: General	6. 最初と最後の頁 1125 ~ 1133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/xge0000398	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Otsuka Yumiko, Clifford Colin W. G.	4. 巻 18
2. 論文標題 Influence of head orientation on perceived gaze direction and eye-region information	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Vision	6. 最初と最後の頁 15 ~ 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1167/18.12.15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakamura Koyo, Kawabata Hideaki	4. 巻 65
2. 論文標題 Preferential access to awareness of attractive faces in a breaking continuous flash suppression paradigm	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Consciousness and Cognition	6. 最初と最後の頁 71 ~ 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.concog.2018.07.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計45件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 中村航洋・渡邊克巳
2. 発表標題 データ駆動処理による顔魅力印象の規定要因の検討
3. 学会等名 日本認知心理学会第17回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村航洋
2. 発表標題 顔・表情が伝えるもの
3. 学会等名 日本感情心理学会第27回大会プレカンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口ゆり・中村航洋・狩野文浩・友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーの乳児選好における顔の形態と色の役割
3. 学会等名 第35回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakamura, K.
2. 発表標題 Data-driven mathematical modeling of facial attractiveness (Symposium: Science of Facial Attractiveness)
3. 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV 2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kondo, A., Nakamura, K., & Watanabe, K.
2 . 発表標題 Serial dependence in perception of facial attractiveness
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV 2019) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Lee, J., Nakamura, K., & Watanabe, K.
2 . 発表標題 Female bias in face memory
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV 2019) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nakamura, K., & Watanabe, K.
2 . 発表標題 Data-driven mathematical modeling reveals hidden cues to attractiveness: Are attractive faces always feminine-looking?
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV 2019) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yarimizu, H., Nakamura, K., Watanabe, K., & Yamaguchi, M.
2 . 発表標題 Cultural differences in the generalization of the mere exposure effect
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV 2019) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Chen, N., Nakamura, K., & Watanabe, K.
2. 発表標題 Red biases sex categorization of bodies
3. 学会等名 The 42nd European Conference on Visual Perception (ECVP 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakamura, K., Mikuni, J., Leder, H. & Watanabe, K.
2. 発表標題 Data-driven mathematical model of universality and cultural differences in facial attractiveness judgements
3. 学会等名 The 42nd European Conference on Visual Perception (ECVP 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Otsuka, Y., Palmer, C., Watanabe, K., & Clifford, C.
2. 発表標題 Gaze adaptation induced by the bloodshot illusion
3. 学会等名 The 42nd European Conference on Visual Perception (ECVP 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村航洋・三國珠杏・Helmut Leder・渡邊克巳
2. 発表標題 データ駆動処理による顔魅力評価の普遍性と文化差のモデル化
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林麻衣子・齋藤有瑳・中村航洋・渡邊克巳
2. 発表標題 文脈に依存したメイクアップとその対人印象の検討
3. 学会等名 第24回顔学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村航洋・小林麻衣子・渡邊克巳
2. 発表標題 統計的顔画像解析によるメイクアップ効果の定量化と印象操作
3. 学会等名 第24回顔学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鐘水秀和・田中みわ子・床呂郁哉・中村航洋・渡邊克巳・金沢創・山口真美
2. 発表標題 文化的差異と集団魅力判断の関係 タブレットPCを用いた青少年対象とした検討
3. 学会等名 第24回顔学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., Nakamura, K., Kano, F., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The role of facial shape and color in chimpanzee's attention to infant
3. 学会等名 日本動物心理学会第79回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・中村航洋・渡邊克巳
2. 発表標題 顔の信頼感/不信感判断のアシンメトリ
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会若手オーラルセッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村航洋・Valentina Ticcinelli・Anne-Raphaelle Richoz・Roberto Caldara・渡邊克巳
2. 発表標題 表情表出様式の普遍性と文化的多様性 日本人とスイス人を対象とした異文化比較
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会若手オーラルセッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大塚由美子・Colin Palmer・Colin Clifford・渡邊克巳
2. 発表標題 充血錯視による視線残効：文化差の検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孟憲巍・Song Ruiting・石井辰典・杉本海里・森口佑介・渡邊克巳
2. 発表標題 ギャップのある人は（いつから）記憶に残るか？：相手の表情表出と行為の一致性が幼児の記憶に与える影響
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, M., Nakamura, K., & Watanabe, K.
2. 発表標題 Attractive faces are rewarding irrespective of face category: Motivation in viewing attractive faces in Japanese viewers
3. 学会等名 2020 12th International Conference on Knowledge and Smart Technology (KST) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tanaka, T., Mikuni, J., Shimane, D., Nakamura, K., & Watanabe, K.
2. 発表標題 Accounting for private taste: Facial shape analysis of attractiveness and inter-individual variance
3. 学会等名 2020 12th International Conference on Knowledge and Smart Technology (KST) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村航洋・佐々木恭志郎・渡邊克巳
2. 発表標題 顔印象の心理学研究から考えるルックス至上主義の世界
3. 学会等名 第3回犬山認知行動研究会議
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 朱思斉・佐々木恭志郎・姜月・錢セン;・山田祐樹
2. 発表標題 雲南省少数民族的空間情動比喻
3. 学会等名 第3回犬山認知行動研究会議
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤有瑛・小林麻衣子・中村航洋・渡邊克巳
2. 発表標題 TPOに合わせたメイクとその対人印象の検討
3. 学会等名 電子情報通信学会研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森岡祐士・中村航洋・小林麻衣子・渡邊克巳
2. 発表標題 日本人顔モデルを用いたReverse caricature effectの持続性
3. 学会等名 電子情報通信学会研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島璃子・磯村朋子・石井辰典・渡邊克巳
2. 発表標題 目の表情変化の検出が笑顔の真偽判断に及ぼす影響
3. 学会等名 電子情報通信学会研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊克巳
2. 発表標題 顔魅力の心理学
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Otsuka Y.
2. 発表標題 Otsuka Y.
3. 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Otsuka Y, Clifford C W G.
2. 発表標題 How does head orientation influence perceived gaze direction from each of the two eyes? Psychophysical experiments and analysis of geometrical cues in the stimulus eye region.
3. 学会等名 41st European Conference on Visual Perception (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saegusa, C., Richoz, A-R., Caldala, R., & Watanabe, K.
2. 発表標題 Parts-based facial attractiveness judgment in different cultures.
3. 学会等名 Asia Pacific Conference on Vision (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大塚由美子・Colin Palmer・Colin Clifford・渡邊克巳
2. 発表標題 充血錯視画像を用いた視線残効の検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村航洋
2. 発表標題 顔魅力評価における顔の形態情報と表面情報の相対寄与度
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会（公募シンポジウム 話題提供）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kobayashi, M., Nakamura, K., & Watanabe, K
2. 発表標題 Gender differences in effort-based motivation to view sexually arousing stimuli
3. 学会等名 International Convention of Psychological Science (ICPS2019)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakamura, K., & Watanabe, K.
2. 発表標題 Data-driven quantitative modeling of facial attractiveness.
3. 学会等名 The 14th Asia Pacific Conference on Vision (APCV 2018)（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤あき・中村航洋・渡邊克巳
2. 発表標題 顔魅力の知覚表象における系列依存性
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村航洋・Ticcinelli Valentina・Richoz Anne-Raphalle・Caldara Roberto・渡邊克巳
2. 発表標題 形態測定学的アプローチによる表情表出の時空間的パターン解析
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村航洋
2. 発表標題 顔魅力評価における顔の形態情報と表面情報の相対寄与度(顔魅力の心理学シンポジウム話題提供)
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三枝千尋
2. 発表標題 顔魅力の心理学シンポジウム話題提供
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大塚由美子・Colin Palmer・Colin Clifford・渡邊克巳
2. 発表標題 充血錯視画像を用いた視線残効の検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村航洋・渡邊克巳
2. 発表標題 データ駆動型アプローチによる顔魅力の統計モデル構築と魅力の定量的操作
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会 @ 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三枝千尋
2. 発表標題 顔の魅力判断における視覚情報の統合過程
3. 学会等名 日本視覚学会2018年冬季大会大会企画シンポジウム @ 工学院大学アーバンテックホール(東京都新宿区)(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊克巳
2. 発表標題 多文化をつなぐ顔と身体表現(指定討論)
3. 学会等名 日本視覚学会2018年冬季大会大会企画シンポジウム(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊克巳
2. 発表標題 顔から読む 音声・印象・視線の知覚研究
3. 学会等名 日本基礎心理学会平成29年度第2回フォーラム, 愛媛大学総合情報メディアセンター(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村航洋
2. 発表標題 計算モデリングと実験心理学的アプローチによる顔印象知覚メカニズムの探求
3. 学会等名 日本基礎心理学会平成29年度第2回フォーラム「顔から読むー音声・印象・視線の知覚研究」@愛媛大学総合情報メディアセンター(愛媛県松山市)(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 河野 哲也、山口 真美、金沢 創、渡邊 克巳、田中 章浩、床呂 郁哉、高橋 康介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 464
3. 書名 顔身体学ハンドブック	

1. 著者名 佐々木恭志郎(分担共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 美しさと魅力の心理(三浦 佳世、河原 純一郎 編集):	

1. 著者名 大塚 由美子(分担共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 美しさと魅力の心理(三浦 佳世、河原 純一郎 編集)	

1. 著者名 中村航洋 (分担共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 美しさと魅力の心理 (三浦 佳世、河原 純一郎 編集)	

1. 著者名 大塚 由美子 (分担共著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 212
3. 書名 注意の生涯発達心理学(坂田 陽子、日比 優子、河西 哲子 編)	

1. 著者名 大塚由美子・仲渡江美 (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 たのしく学べる乳幼児のこころと発達 (櫻井 茂男、大内 晶子 編集)	

1. 著者名 大塚 由美子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 11
3. 書名 日本発達心理学会 (編) 発達科学ハンドブック	

1. 著者名 Otsuka Y.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 327
3. 書名 T. Tsukiura & S. Umeda (Eds.) Memory in Social Context: Brain, Mind, and Society	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	大塚 由美子 (Otsuka Yumiko) (20757645)	愛媛大学・法文学部・准教授 (16301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	松吉 大輔 (Matsuyoshi Daisuke)		
研究 協力者	三枝 千尋 (Saegusa Chihiro)		
研究 協力者	中村 航洋 (Nakamura Koyo)		
研究 協力者	磯村 朋子 (Isomura Tomoko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	向井 香瑛 (Mukai Kae)		
研究協力者	佐々木 恭志郎 (Sasaki Kyoshiro)		
研究協力者	小林 麻衣子 (Kobayashi Maiko)		
研究協力者	石井 辰典 (Ishii Tatsunori)		
研究協力者	渡邊 伸行 (Watanabe Nobuyuki)		
研究協力者	孟 憲巍 (Meng Xainwei)		
研究協力者	近藤 あき (Kondo Aki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学			
米国	ミシガン大学	ネバダ大学		
オーストリア	ウィーン大学			
スイス	フリブール大学			